

メッセージ 6

三一の神の中にある召会

聖書： I テサロニケ 1:1, 3-6, 10. I ヨハネ 1:5. 2:27. 4:16. 5:11-12

父なる神と 主イエス・キリストにある テサロニケ人の	I テサ 1:01 パウロとシルワノとテモテから、 父なる神と主イエス・キリスト にある テサロニケ人 の召会へ。恵みと平安があなたがたにありますように。 II テサ 1:1 パウロとシルワノとテモテから、神であるわたしたちの 御父と主イエス・キリスト にある テサロニケ人 の召会へ。
----------------------------------	--

MSG6 三一の神の中にある召会				
三一の神を認識する	I	三一の神は、新約の構造、枠組です（構造、あるいは枠組み）		
	II	経験し、享受することによって、三一の神を認識する(手段)		
	III	個人の心の領域の中で三一の神を認識する(領域)		
	IV	新約は神聖な三一で構成されています(構成、要素)		
三一の神の中で	V	父なる神と 主イエス・キリスト にある召会	A	父なる神(にある) 主イエス・キリスト にある テサロニケ人の 召会
			B	召会は三一の神の中にある
			C	召会は手順を経た三一の神の中にある
			D	召会が三一の神の中にあるビジョンを見る

MSG6 三一の神の中にある召会			
日	段落、思路	主題	要点
D1	三一の神を認識する	経験し、享受することによって、三一の神を認識する	三一の神は、新約の構造、枠組です
			経験し、享受することによって、三一の神を認識する
D2	三一の神を認識する	個人の心の領域の中で三一の神を認識する	心の領域の中で三一の神を認識する
			三一の神を認識する道
D3	三一の神の中で	召会は父なる神と主イエス・キリストの中にある	父なる神(にある)
			主イエス・キリストにある
D4		テサロニケ人の召会	テサロニケ人の意義
			テサロニケ人の経験
D5		召会は三一の神の中にある	「父なる神」と「主イエス・キリスト」は霊を暗示
			三一の神の中での経験
D6	召会は手順を経た三一の神の中にある	手順を経た三一の神の中にある	
		召会が三一の神の中にあるビジョンを見る	

まとめの言葉	
召会生活のための聖なる生活	
三一の神を認識する	経験し、享受することによって 心の領域の中で
三一の神の中で	聖なる人となる 聖なる生活をする

三一の神を認識する——経験し、享受することによって三一の神を認識する

三一の神は、新約の構造、枠組です

I. 三一の神は、新約の構造です——マタイ 12:28, 28:19, ヨハネ 15:26, 使徒 2:33, ローマ 8:11, ガラテヤ 4:6, エペソ 3:16-17, 4:4-6, ヘブル 9:14, I ペテロ 1:2, 啓 1:4-5。

経験し、享受することによって、三一の神を認識する(手段)

II. わたしたちは、三一の神を経験し、享受することによって、彼を認識するようになります——

I ヨハネ 1:5, 2:27, 4:16, 5:11-12 :

- A. 三一の神は、わたしたちの信仰の対象であるだけではありません。彼はわたしたちの中に住んでおり、わたしたちの命また命の供給として、わたしたちに経験と享受を与えます—— I ヨハネ 4:13-15。
- B. わたしたちは、主観的な神を内側で享受することを通して、三一の神を経験的に認識する必要があります——2:27, 4:4。
- C. もしわたしたちが三一の神を認識しようとするなら、命の路線の中に、命の成長の過程の中にいなければなりません。わたしたちは命において成長すればするほど、ますます神聖な三一に関心を持つようになります——2:13-18。

わたしたち個人の心の領域の中で三一の神を認識する(領域)

III. 三一の神がわたしたちの経験と享受になるとき、彼は御座におられる宇宙的に広大な方であるだけでなく、わたしたちの心の中におられる方でもあります——啓 4:2-3, 5:6, I ヨハネ 3:19-21 :

*個人の心の領域において認識する

A. わたしたちは、宇宙の広大さにおいて三一の神を認識するのではなく、わたしたち個人の心の領域において彼を認識します——ヘブル 8:10-11。

*心の内側の各部分すべての中へと広がることを願っている方を認識する

B. 新約における関心事は、わたしたちの存在の中に入って来て住んでいる三一の神を、わたしたちが認識することです。すなわち、わたしたちの霊の中に住んでおり、わたしたちの心の内側の各部分すべての中へと広がることを願っている方を、認識することです——エペソ 3:14-17 前半, I ヨハネ 3:19-21。

*認識する道

C. わたしたちが三一の神を認識するための新約の道は、個人的であり、細やかであり、経験的です——2:20, 27, ヘブル 10:16。

D. 三一の神を認識するこのような経験的な道は、何と尊いことでしょう!

新約は神聖な三一で構成されています(構成、要素)

IV. 新約は、聖書全体と同じように、完全に神聖な三一をもって構成されており、神聖な三一がその構造となっています——マタイ 28:19, 啓 1:4-5, 22:1-2 :

A. 新約全体は三一の神と関係があります。三一の神が新約を構成する要素です——エペソ 3:16, 4:4-6。

B. 聖書がわたしたちに提示している絵は、神聖な三一が彼のエコノミーを達成するための行動について見せています——ルカ 15:3-32, エペソ 2:18。

C. 聖書は支配する原則にしたがって書かれました。それは、三一の神が彼の選ばれ贖われた民の中へと造り込まれて、彼らの享受、飲み物、命の源泉また光になるということです——詩 36:8-9。

- D. 神の御言における三一の神に関する啓示は、神が彼の神聖な三一の中で、彼の選ばれ贖われた民の中へと分与されて、彼らの経験また享受となるためです。それによって、彼らは永遠にわたって彼の団体の表現となります——エペソ 1:3-23. 4:16. 啓 21:2, 10-11。

召会は父なる神と主イエス・キリストの中にある

V. テサロニケ人への第一の手紙は、「父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人の召会」へあてて書かれています—— I テサロニケ 1:1:

*父なる神の中にある、主イエス・キリストの中にある、テサロニケ人の召会

- A. テサロニケに在る召会は、一方において、テサロニケ人に属するものであり、他方において、父なる神と主イエス・キリストの中にあるものでした：
1. そのような召会は、父なる神から生まれており、彼の命と性質を持っています。また、主イエス・キリストであるすべてと彼が行なったすべてにおいて、彼と有機的に結合されています——ヨハネ 1:12-13. I コリント 1:30. 6:17。
 2. わたしたちが見る必要のあることは、召会が、父なる神と主イエス・キリストにある人たちで構成されており、彼らは神の命を持っていて、キリストと有機的に結合されているということ——ヨハネ 3:15. 15:1, 5。

*召会は三一の神の中にある

- B. パウロが、父なる神と主イエス・キリストにある召会について語るとき、事実上、彼が意味していることは、召会が三一の神の中にあるということです—— I テサロニケ 1:1. I コリント 1:2. 12:4-6 :
1. 「父なる神」と「主イエス・キリスト」という表現はいずれも、その霊を暗示しています。ですから、I テサロニケ第1章1節では、その霊が暗示されているのがわかるので、わたしたちは召会が三一の神の中にあると言ってもよいでしょう。
 2. 神聖な三一の三者は分離することができないので、いつであれわたしたちが第一の御父を持つとき、第二の御子と第三のその霊も持ちます——マタイ 12:28. ローマ 8:11. ガラテヤ 4:4-6。
 3. 父、子、霊はひとりの神であって、三人の神ではありません。彼らには区別はありますが、分離はしていません——II コリント 13:14 :
 - a. わたしたちは、子を父から分離することはできませんし、また父と子を霊から分離することもできません。なぜなら、三者はみな同時同存し、相互内在しているからです——ヨハネ 14:10-11。
 - b. 彼らの永遠の同時同存において、神格の三者には区別がありますが、彼らの永遠の相互内在は、彼らを一とならせます。
 4. 神聖なエコノミーの中では、神聖な三一の三者は、三つの連続した時期においてそれぞれが働き、現されます——エペソ 1:3-14 :
 - a. 父は、計画し、創始し、開始する方です——3-6 節。
 - b. 子は、父が計画し、創始し、開始したすべての事を達成します——7-12 節。
 - c. その霊は、父が計画した事と子が達成した事を執行し、適用します——13-14 節。
 - d. 選びは父からであり、救いは子からであり、分け与えや繁殖は霊からです——I テサロニケ 1:3-6, 10。
 5. 子が来るとき、彼は父と共に、霊によって来ます。子は霊として実際化されています。霊は子として、父と共に来ます——ヨハネ 14:26. 15:26。

* 召会は手順を経た三一の神の中にある

- C. 召会が父なる神と主イエス・キリストにあるとは、召会が手順を経た三一の神の中にあることを意味します——マタイ 28:19. エペソ 4:4-6 :
1. 聖書によれば、召会が神の中にだけあるというようなことはありません。そうではなく、召会が手順を経た三一の神の中にあります——Ⅱコリント 13:14。
 2. 創世記第1章では、神は手順を経ていない神でした。しかし新約では、彼は手順を経た三一の神となりました——ヨハネ 7:37-39. ピリピ 1:19。
 3. 「手順を経た」とは、三一の神が神聖なエコノミーの中で経過した重要な段階を指しています。すなわち、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活です：
 - a. 十字架において主は、贖いを達成し、旧創造を終結させ、サタンと死を滅ぼしました——エペソ 1:7. ローマ 6:6. ヘブル 2:14。
 - b. 復活において、彼は新創造を生じさせました——Ⅱコリント 5:17。
 - c. 今や彼は命を与える霊であり、手順を経た三一の神の究極的完成です——Ⅰコリント 15:45 後半. Ⅱコリント 3:17 前半。
 4. 手順を経た三一の神の中にある召会とは、命を与える霊と成った、父と子を伴う方の中にある召会です——ヨハネ 14:20 :
 - a. 手順を経た三一の神は命を与える霊として、わたしたちに臨み、わたしたちと接触し、わたしたちの経験の中でわたしたちに適用されます——Ⅰコリント 15:45 後半。
 - b. 父は子の中にあり、子は今や命を与える霊であり、わたしたちの中に住んでいます——ヨハネ 14:10-11, 16-17, 20。
 - c. わたしたちは父なる神と主イエス・キリストの中にあるとき、その霊の中にあります。
こういうわけで、わたしたちは手順を経た三一の神の中にある召会です。

* 召会が三一の神の中にあるビジョンを見る

- D. もしわたしたちが三一の神の中にある召会のビジョンを見るなら、このビジョンはわたしたちの思想、活動、生活全体を支配します——箴 29:18 前半. 使徒 26:19。